

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《人社系》

●北海道教育大学教育学研究科学校臨床心理専攻

「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

①リサーチベースの高度な実践構想力をもつ学校教員、及び学校教員と協働して心理的・福祉的なケアを担う人材を養成するために、次の②～⑤を通して、科目構成の整理を展開しています。

②教育・心理・福祉等の領域横断的な科目群の進展のため、中核となる学校臨床心理学科目群・臨床教育学科目群の講義内容の重点化を図り、「学校心理学特別演習」「学校カウンセリング実地研究」「特別支援教育コーディネータート論」等において、コンサルテーション、コーディネーション、そしてコラボレーションを重点としました。

③リサーチベースの高度な実践構想力涵養のために、既存の研究法科目に加えて、平成23年度から「臨床教育学質的研究法」の新設を計画し、進展を図っています。

④臨床的事例研究を扱った科目群「臨床生徒指導特別演習」、「臨床心理事例研究法特別演習」に、平成23年度から新設科目を加え、科目群のさらなる進展を計画しています。

⑤臨床心理士、学校心理士、臨床発達心理士などの幅広い資格取得関連科目充実のため、科目の新設を進めています。また、科目の内容を精査することにより、平成23年度から実施される学校心理士資格新基準に対応したカリキュラムを整えました。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

・教育・心理・福祉等の領域横断的な科目群では、地域で活躍する大学院の修了生を中心とした授業補助講師を積極的に招聘し、地域密着型の大学院教育を進展することができるように考慮しています。

・科目の整備にあたり、4つのキャンパスに所属する本専攻教員全員で会議を開催しています。毎年度、定期的に対面、TV会議システムを活用して会議を開催し、教員間の相互理解、意思疎通を図るように配慮しています。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

・目指すべき人材像の整備、講義科目構成の整理、講義の充実により、大学院生が本専攻で学ぶことの意義を明確に自己認識できるようになり、学校教育を中核

にして教育・心理・福祉等の領域横断的職種が地域に根差した協働関係を構築すること、それぞれの大学院生がリサーチベースの実践構想力を高めることに結び付いています。このことは、大学院生の授業レポート、アンケートの結果に表れています。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

③論文作成支援の充実

《人社系》

●北海道教育大学教育学研究科学校臨床心理専攻

「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ①教育学博士の学位を取得している若手のリサーチメンターを登用し、大学教員と協働した継続的なりサーチメンタリングを実施しました。
- ②大学教員みずからが大学院生の勤務校に訪問し、教育実践の事例に即して指導・助言する参画型のスーパーヴァイズを継続的に実施しました。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・メンタリングと大学教員による参画型スーパーヴァイズを有機的に運用できるように月1回のメンターと大学教員の会議を定例で開催し、大学院生毎の指導ファイルを作成することにしました。
- ・大学教員による参画型スーパーヴァイズにメンターを同行し、またメンタリングに大学教員が同席して、メンターと大学教員の大学院生に対する一貫性のあるかわりを進めることができるように考慮しました。
- ・メンタリングは、個別、グループ等の形態を工夫し、大学院生の自律的な学びをサポートできるように考慮しました。また、出張によるメンタリングも実施し、4つのキャンパスのどこでも大学院生は公平にメンタリングを受けることができるように工夫しました。
- ・大学院生の勤務校訪問に際しては、勤務校と綿密な連絡調整を行い、趣旨を理解いただくとともに、教育現場との日常的な関係構築を意識しました。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院生の研究テーマの構想や研究動機の開発に有意義な影響を与えることができ、質の高い学位論文作成に繋げることができました。
- ・メンターと大学教員の意思疎通が進み、個別の大学院生への一環した研究支援が可能となりました。
- ・大学教員が、学校現場の臨床的・実践的なニーズを反映させたカリキュラム改善を常に意識しつづけるようになりました。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

《人社系》

●北海道教育大学教育学研究科学校臨床心理専攻

「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

大学院の修了生のためのグループメンタリングの開催、修了生を講義に授業補助講師として招聘する事業実施によって、大学院修了後のフォローアップを進めています。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・授業補助講師として修了生が自分の教育・臨床実践をリサーチベースでふりかえることができるように、大学教員との共同研究体制を構築し、研究成果を大学院生に話題提供するように考慮しました。
- ・グループメンタリングにより、修了生が自分の学位論文を、時間を経てふりかえることができるように工夫しました。
- ・学会発表、研究論文投稿を希望する修了生への支援を積極的に行いました。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院の修了生の持続的な研究意欲と研究的実践者としての資質能力が格段に向上しています。
- ・北海道の全道・各地域を結び、本専攻の修了生が主体となった新しい学会や研究会（北海道臨床教育学会、学校臨床心理研究会等）の設立が準備されています。
- ・博士課程への進学希望者が増加しています。
- ・大学院の修了生の学会発表数、論文掲載数が増加してきています。